

グローバル!

コンテクストに

おける

妖怪の

理論化と

歴史化



2023年12月16日[土]

9時～12時(日本時間) * 12月15日(金)19時～22時(ニューヨーク時間)

オンライン開催 (Zoomウェビナー)

◎主催…国際日本文化研究センター ◎対象者…研究者、大学生、大学院生 ◎言語…日本語

申し込み方法

11月17日(金)午前10時から申し込み開始

日文研HP(下記URL)に申込フォームのURLを掲載しますのでこちらからお申し込みください。
定員500名に達した時点で締め切らせていただくことを、予めご了承ください。

<https://www.nichibun.ac.jp/ja/research/kikan/2023/12/16/>



プログラム

【問題提起】

「妖怪」を定義・理論化し、
比較する

ハルオ・シラネ

(コロンビア大学・教授 2019年山片蟠桃賞、第1回日本研究国際賞受賞)

キリスト教、仏教、イスラム教などの大宗教や科学の普及に伴って、民間信仰的なものは排除されていくなされているが、日本では、民間信仰が宗教(仏教や神道、儒教)に吸収されず、活発に生きて今日に至っている。その基盤である霊魂信仰などから多くの妖怪が生まれ、他の信仰や宗教や科学(本草学など)と共存して変遷してきた。妖怪現象の大きな特徴の一つは、自然環境との深い関わりと恐怖である。自然環境の大きなコンテクストの中で、妖怪を理論化、歴史化していく見取り図を示し、議論のきっかけとしたい。

【ディスカッション】

「妖怪」の理論化と歴史化

山中由里子(国立民族学博物館・教授)

木場貴俊(京都先端科学大学・准教授)

廣田龍平(慶應義塾大学等・非常勤講師)

大塚英志(国際日本文化研究センター・教授)

マイケル・ディラン・フォスター
(カリフォルニア大学デービス校・教授)

金容儀(韓国全南大学校・教授)

小松和彦(国際日本文化研究センター・名誉教授)

安井真奈美(国際日本文化研究センター・教授)